

平成27年度実施施策に係る政策評価書

別紙2

(環境省27-⑦)

施策名	目標6-1 環境リスクの評価					
施策の概要	化学物質による人の健康や生態系に対する環境リスクを体系的に評価					
達成すべき目標	<ul style="list-style-type: none"> 化学物質の環境実態調査を実施し、基礎資料として施策の策定に活用。化学物質の環境リスク初期評価調査を実施し、環境を経由した化学物質による影響の未然防止を図る。 化学物質の内分泌かく乱作用について調査研究を実施し、各化学物質が人の健康や生態系に及ぼす影響について明らかにし、リスク評価を実施する。 子どもの健康と環境に関する全国調査を実施し、次世代育成に係る健やかな環境の実現を図る。 					
施策の予算額・執行額等	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (百万円)	当初予算(a)	4,615	5,304	5,164	5,263
		補正予算(b)	977	1,180	1,298	-
		繰越し等(c)	996	1,095	(※記入は任意)	
		合計(a+b+c)	6,588	7,579	(※記入は任意)	
執行額(百万円)	6,407	7,219	(※記入は任意)			
施策に関係する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	-					

測定指標	①環境リスク初期評価実施物質数	基準値	実績値					目標値	達成
		16年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	○
		-	19	23	14	18	22	14	
		年度ごとの目標値	-	19	19	14	14	14	
	②化学物質環境実態調査を行った物質・媒体数	基準値	実績値					目標値	達成
		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	△
		-	98(122%)	86(108%)	53(66%)	88(110%)	77(96%)	80(100%)	
		年度ごとの目標値	-	80	80	80	80	80	
	③内分泌かく乱作用に関して、文献等を踏まえ評価対象として選定した物質数(累積)	基準値	実績値					目標値	達成
		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	32年度	○
		-	63	85	107	114	132	200	
		年度ごとの目標値	-	-	-	-	100	-	
	④子どもの健康と環境に関する全国調査の調査終了時における追跡率(%)	基準	施策の進捗状況(実績)					目標	達成
		26年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	39年度	○
		80%	-	-	-	99%	98%	80%	
		年度ごとの目標	-	-	-	80%	80%	-	

評価結果	目標達成度合いの測定結果	<p>(各行政機関共通区分) 相当程度進展あり</p> <p>(判断根拠)</p> <p>①環境リスク初期評価のための基礎情報の収集・検討作業を推進し、目標を上回る22物質について環境リスク初期評価を取りまとめ、公表した。 ②化学物質環境実態調査では、27年度達成率が96%と目標をほぼ達成した。 ③化学物質の内分泌かく乱作用については、文献調査等を踏まえた評価対象物質の選定数について、平成22年7月に「化学物質の内分泌かく乱作用に関する今後の対応— EXTEND2010 —」(EXTEND2010)で設定した目標を達成した。 ④エコチル調査で得られた成果をより信頼性の高いものにするために必要な追跡率(調査参加者のうち継続して参加している者の割合)80%を上回っており、目標を達成した。</p>
	施策の分析	<p>①環境リスク初期評価については、平成27年度までに336物質について評価を取りまとめ、公表している。評価結果について、必要に応じて関係部局等に情報提供することで、環境を経由した化学物質による影響の未然防止に寄与している。</p> <p>②化学物質環境実態調査の結果については、調査要望を受けていた省内の化学物質規制等の施策を行っている部署にフィードバックし、それぞれの施策に活用された。</p> <p>③化学物質の内分泌かく乱作用については、文献調査等を踏まえた評価対象物質の選定数について、平成22年7月に「化学物質の内分泌かく乱作用に関する今後の対応— EXTEND2010 —」(EXTEND2010)で設定した目標を超過達成し、着実にリスク評価に向けた取り組みを進めている。</p> <p>④子どもの健康と環境に関する全国調査については、平成27年度までの追跡調査において調査対象者の追跡率は目標にあげていた80%以上を維持している。追跡率の維持は調査のデータの蓄積に寄与することで、調査の効果的な実施に繋がり、ひいてはこれらが次世代育成に係る健やかな環境の実現に寄与している。</p>

<p>次期目標等への 反映の方向性</p>	<p>【施策】</p> <p>①環境リスク初期評価については、引き続き、関係課室の要望を踏まえて化学物質の初期評価を実施する。 ②化学物質によるヒトや生態系への影響を未然に防ぐため、引き続き、環境実態調査の結果を、調査要望があった化学物質管理を所管している部署へフィードバックしていく必要がある。 ③平成28年度に新たにEXTEND2016を策定し、これまでと同様に化学物質の内分泌かく乱作用に関するリスク評価、管理に向けた取組を継続する。 ④子どもの健康と環境に関する全国調査については、引き続き調査を実施することで、次世代育成に係る健やかな環境の実現を図る。</p> <p>【測定指標】</p> <p>①環境リスク初期評価については、引き続き、環境リスク初期評価実施物質数とする。 ②化学物質環境実態調査については、引き続き、調査を行った物質・媒体数を指標とする。 ③化学物質の内分泌かく乱作用については、平成28年度にEXTEND2010を引き継ぐ形でEXTEND2016を策定していることから、目標値を新たに設定した上で引き続き本指標を用いる。 ④子どもの健康と環境に関する全国調査については、調査参加者の追跡率のみに留まらず、追跡調査によるデータの蓄積や平行して行う化学物質の分析の進捗も勘案して、測定指標を「子どもの健康と環境に関する全国調査の推進」に変更する。</p>
---------------------------	---

<p>学識経験を有する者の知見の活用</p>	<p>①環境リスク初期評価に関しては、中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会において専門的な検討をいただいている。 ②中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会において専門的な検討をいただいている。 ③化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会において専門的な検討をいただいている。 ④エコチル調査企画評価委員会等において、本調査の企画、実施内容の評価及び本調査の成果を国際貢献につなげるための国際連携の方向性等について、検討を行っていただき、今後の調査実施に反映することとしている。</p>
------------------------	--

<p>政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報</p>	<p>化学物質の環境リスク評価(第14巻) 平成27年度版「化学物質と環境」 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)研究計画書</p>
----------------------------------	---

<p>担当部局名</p>	<p>環境保健部 環境リスク評価室 環境安全課</p>	<p>作成責任者名 (※記入は任意)</p>	<p>環境リスク評価 室長 笠松 淳也 環境安全課長 立川 裕隆</p>	<p>政策評価実施時期</p>	<p>平成28年6月</p>
--------------	-------------------------------------	----------------------------	--	-----------------	----------------